

ひまわり



令和2年5月7日(木)

医療従事者の皆さんに感謝



緊急事態宣言が延長されました。4日の安倍首相の記者会見を見た人も多いのではないのでしょうか。この延長により、特定警戒都道府県に指定されている大阪では、これまでと同様の外出自粛などが求められています。もうしばらくの我慢をしていきましょう。それが、多くの人の命を守り、将来の社会経済の早期回復につながります。

このような状況の中、医療従事者は最前線で新型コロナウイルス感染症と闘っています。先日、看護師や歯科衛生士をしている教え子と電話で話をしました。看護師は、医療用のマスクや手袋が不足する中、自分が感染してしまうのではないかと、そして家族や他者に感染させてしまうのではないかと不安がいつもあると話していました。歯科衛生士の業務は感染リスクが非常に高いので、ゴーグルやフェイスシールドをしても心配は尽きないとのこと。それでも、目の前の患者さんに向き合うことが自分たちの使命だ、と頑張る二人に頭が下がりました。

先日のMBSニュースで、大阪市長の指示により、十三市民病院が新型コロナウイルス感染症の専門病院として運用されることが報道されました。5月初旬の運用開始だそうです。

その後、とても憂慮すべきことが起こっています。それは、十三市民病院の医療従事者への偏見や差別です。

「コロナがうつるから乗るな！ 扉を閉めてくれ」

十三市民病院前のバス停で、病院関係者がバスに乗ろうとすると、中にいた乗客がそう叫びました。

また、「コロナの病院で働いてるんでしょ。（新聞の）集金どうしようかになって思ったわ」と心ない言葉を投げかけられたスタッフもいたとのこと。

もし、私たちが感染した場合、守ってくれるのは医療従事者しかいません。また、彼らは、自分たちが感染しないよう最大限の防備をしています。同時に、自分が感染しているかもしれない、ということを前提とした行動も実践していると聞きます。

感染のリスクを背負い、一人でも多くの命を救うために闘う医療従事者への偏見や差別は、決してあってはならないことです。医療従事者の皆さんに、あらためて感謝の気持ちを向けましょう。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

